

## 中国・大連での生活と大連日本人学校での教育活動について

平成 23 年度派遣  
川口市立青木中央小学校  
教諭 本澤 祐子

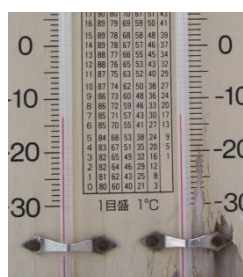
### 1 はじめに

平成 23 年 4 月に中国・大連日本人学校に赴任し、3 年間勤務した。同じアジアの国とはいえ、初めての海外生活、文化の違いに戸惑うことも多かった。しかし、周りの人々に恵まれ、助けられながら、充実した日々を送ることができた。3 年間の感謝をこめて、報告とする。

### 2 中華人民共和国・大連の概要

大連は、中華人民共和国（以下、中国）東北部にある遼寧半島の南端に位置し、日本から飛行機で2時間ほどの距離にある。港町として栄える、中国国内でも重要な都市の一つである。

ロシアや日本との関係は深く、19～20世紀にかけて両国の租借地として統治下に置かれていた歴史のある街である。そのため、現在でも街のあちこちに当時の建造物が残っており、ロシアや日本の面影を感じることができる。20世紀以降は日本企業の進出も多く、大連経済技術開発区には多くの日本企業の工場があり、生産・輸出の拠点となっている。また、また、大連高新技术产业园区（ハイテクゾーン）と大連软件园（ソフトウェアパーク）には多くのIT企業が進出しており、世界中への発信拠点となりつつある。



< -1.4°C >

大連市は宮城県仙台市とほぼ同緯度にあり、黄海に面している。中国と日本との時差は1時間で、日本より一時間遅い。四季は比較的はっきりしており、夏は日差しは強いが、湿度が低く過ごしやすい。冬は-10°C前後の冷え込みに加え、海からの風が強く、体感温度はもっと低くなる。しかし、室内には暖気という暖房設備が整っており、温かく過ごすことができる。雪が降ると道路が凍結し、交通渋滞や通行止めが多くなり、チェーンやスタッドレスタイヤを装着している車が少ない大連ではスリップして、危険な場面も多い。

現在は大連と瀋陽とを結ぶ瀋大高速道路や哈大高速鉄道が開通するとともに、地下鉄の整備も進んでおり、交通もますます便利になっている。国際ビール祭や国際ファッション祭、国際マラソン大会などが開催され、文化の発信地となったり、隔年で世界経済フォーラム（ダボス会議）の開催地になったりと、世界的にもめざましい躍進を遂げている街である。



< 夏場は最高時速300km >



大連の人々は、日本や日本人に親しみをもっており、日本語を話せる人が多かったり、日本語表記の看板が多く見られたり、日本料理屋が多く並んだり、日本人にとっては生活しやすい環境である。割高ではあるが、日系スーパーや、輸入食品店、近年大連に進出してきたローソンなどで、日本の生活用品や食品を購入することもできる。

### 3 大連日本人学校の概要



大連日本人学校は、平成2年に補習校としてスタートし、平成3年に民航療養院の一部を借り上げて移転、平成22年に大連日本人学校として開校し、昨年度創立20周年を迎えた。補習校スタート時は園児10名小学生2名のわずか12名であったが、現在は幼稚園63名、小学部165名、中学部35名の計263名が在籍している。(平成25年8月)

校舎は市内の中心から30分ほどの高台にあり、教室の窓から黄海を臨むことができる。緑豊かで落ち着いた学習環境である。

校内の学習設備やIT機器も充実しており、在外施設という環境でありながら、図書室には8000冊を超える蔵書がある。昨年度は中国の大気汚染対策として、特別教室も含めた全教室に加湿器と空気清浄機が整備された。



<図書室が充実している>

### 4 大連日本人学校の主な教育活動

大連日本人学校には様々な行事や特色ある活動が行われている。

#### ○風景絵画作品展

近隣の海辺や公園に足を運び、写生大会を行う。校外で安全に気を付けながらの活動となるが、通りがかった人たちが覗き込んだり、声をかけたりすることも多く、現地の人と触れ合えるよい機会にもなっている。



<風景絵画>

#### ○校外学習

児童の安全確保の為、必ず通訳と警備員がつく。1年生は近くの公園に自然を集めに行ったり、6年生は平和学習のために旅順を訪れたり等、各学年の実態に応じて様々な場所に学習に行く。特に5年生は、グループに分かれて市内でフィールドワークを行う。自分たちで見学先やコースを考え、バスや路面電車などの公共交通機関を利用して見学をする、現地理解学習の一つでもある。



<2年生 民航たんけん>



<5年生 空港見学>

## ○運動会



小学部 5・6 年，中学部全学年合同で行う組体操は，大連日本人学校の運動会の花形。以前は小学部 3 年生からの参加だったが，近年児童生徒数が増加している為，平成 24 年度以降は小学部 5 年生からの参加となっている。

## ○縦割り活動

小学部のみ，小学部と中学部，幼稚園・小学部・中学部と様々な場面で縦割り活動が行われている。小学部のみは，遠足や現地校との交流，中学生とは縦割り清掃やスタッフを紹介する会等，幼稚園・小学部・中学部は 7 月集会と 12 月集会。同じ校舎で学んでいる為，他の場面でも多く交流の場面がある。そのため，リーダー性が向上したり，自分より下学年に優しくすることができたりする児童生徒が育っている。



## ○小学部・学習発表会 中学部・総合的な学習の時間発表会。

小学部 1・2 年生は生活劇，3～6 年生は総合的な時間で学んだことを劇風に発表，中学部はパワーポイントを用いて資料を作成しプレゼンを行う。



<6 年生は平和について考える>



<2 年生の生活劇>



<中学部の発表>

## ○持久走大会

校舎を借りている民航内の一部を走る。学校が高台になっている為，坂が多い。さらに，グラウンドに入る前に急勾配の坂があり，難易度の高いコース設定になっている。中学部男子の走行距離は 5 km と長めであるが，全員が完走を目指して走っている。

他にも，小学部ウィンターコンサート・中学部合唱発表会，現地校との交流や英語・中国語といった外国語活動，芸術鑑賞会など，様々な活動がたくさんある。どの活動も，教員だけでなく，現地スタッフの力も借りながら，児童生徒の育成のために一丸となって準備を行っている。



<現地校との交流の記念に撮影>

## 5 現地校の視察

### ○長春路小学校

平成 23 年度から交流が始まった学校である。校内の設備として、すべての教室に電子黒板が導入されていた。また、学習機の天板は、日本で使用している長方形のものとは異なり、グループ活動に効果的な形をしていた。先生方も熱心で、先生方との交流も行われた。



<波型の天板>



<6人班での活動が可能>

学習規律は日本と同様、挙手して回答する方式が取られている。姿勢や挙手の仕方に指導が行き届いており、話を聞く際は手を後ろで組んで待つ姿勢をするため、手遊びをすることなく、話し手に集中することができるとともに、姿勢をよくするためにも効果がある。

### ○第十六中学校



長春路小学校と同じく、すべての教室に電子黒板が導入されている。動画や音声、プレゼンテーションソフト、ノートの投影等、電子機器を活用した様々な指導法で効果的に学習が進められている。また、黒板と併用して用いることで、一層効果が感じられた。

### ○特殊教育中心（特別支援学校）

大連にも特別支援学校があり、日本の学校と同じように学習環境が十分に整っている。校内には様々なトレーニングができる特別教室が整備され、充実した学校設備が整えられている。また、児童生徒 4 名に対し、1 名の教員が指導に当たり、個別の支援体制が整えられていた。



<日本と同じような設備が十分に整っている>

<音楽室も充実している>

## 6 おわりに

長いようで短い 3 年間であった。全国から集まった先生方や現地のスタッフのみなさんに、いろいろと教えてもらい、支えてもらった 3 年間であった。文化の違いはあれども、中国の人たちはみな心優しく、一度「朋友」（友達）と認めてくれたら、家族同然に扱ってくれた。日本国内ではなかなか機会がないが、企業の方々からもたくさんのことを教えていただいた。私はよく、児童生徒に「日本のよいところと中国のよいところをよく知っているあなたたちが、これから中国と日本の架け橋になる。」と口にした。今回の経験を活かして、今後は、日本国内でも世界にはばたく児童生徒の育成にあたりたい。